



毎年恒例の田植え

拳ノ川小学校

「拳ノ川の未来を拓く」

子どもを育てる」

校長 藤原 大生

◆はじめに

この春に2名の新入生を迎え、全校児童20名、教職員8名で教育活動をスタートしました。学級数は、複式学級3、特別支援学級1の4学級編成で、日々の授業はもちろん、委員会活動や児童会活動、学校行事などを、皆で協力し合いながら、元気に取り組んでいます。また、保護者および地域全体がとて温かく協力的で、各種行事や学習活動に積極的に関わってくださり、交流を深めながら、故郷の素晴らしさを知り誇りに思う心、故郷を愛する心の育成につなげています。

◆学校教育目標

▼「未来を拓く」夢を実現していくための生きる力の育成」

チーム学校として、指導力、想像力、創造力、組織力を発揮し、「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育を実践し積み重ねること、児童の「生きる力」を育み、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざします。

◆めざす学校像

- 児童が自主的・主体的に活動し、活気に満ちた学校
- やさしく、思いやりの心があふれた学校
- 環境が整備され、安全で安心な学校
- 教職員が互いに高め合い、協働できる学校
- 地域に開かれ、地域から信頼される学校

◆めざす児童像



- ① 心やさしい子
- ② ふるさとを誇れる子
- ③ 主体的に活動する子
- ④ 能力を発揮する子
- ⑤ 体をきたえる子
- ⑥ 和を大切にする子

◆確かな学力をへ知

本年度の研究テーマを、「主体的・協働的に学ぶ子どもを育てる」～いきいきと表現する授業を通して～とし、算数科を中心に研究を進めることで、授業スタンダードの確立と、UDおよび生徒指導の3機能の視点に立った授業構成の工夫、タブレットなどICT機器の積極的な活用、ノート指導、綴り方集会の実施、自主学習の質の向上、読書指導、学習環境の整備など、少人数の良さを活かしながら学力課題の解決に向けて取組を進めています。

◆豊かな心をへ徳

人権教育・道徳教育を核に、全ての教育場面で、ともに認め合う場の設定や肯定的評価を積極的に取り入れることで、自尊感情および自己肯定感の高揚を図っています。また、さまざまな教育活動で人間性を育むのはもちろんですが、学校運営協議会の活動と高知大学が企画運営する水曜放課後プロジェクトの活動にもリンクさせながら、心の育成を図っています。

学校運営協議会の活動

(学校・家庭・地域)

- 田畑での生産活動
- 楮の栽培と和紙作り
- 学校地域合同運動会
- 読み聞かせ
- 収穫祭

など



楮へぐり体験学習

地域に触れ合い、かわり合う体験活動の実施が、郷土愛も含め、教科指導では学びきれない多くのことを学ぶ大切な時間になっています。

水曜放課後プロジェクト

(毎月1回程度の企画運営)

毎回、地域の豊かな自然を活かした活動を企画運営することで、児童および地域と交流が図られ、児童の豊かな心の育成にもつながっています。

◆体力に富みへ体

毎朝のマラソンが、1日のスタートです。走った周数を表に記入し可視化することで児童自身に目標を持たせ、意欲化を図りながら体力の向上をめざしています。また、補助教材を活用した授業実践はもちろん、体育的要素を取り入れた全校レクリエーションを毎週実施するなど楽しみながら体力および運動技能の向上をめざした取組も進めています。



火災避難訓練の様子

◆おわりに

今年度も「チーム拳ノ川」として教職員一同が一丸となり、子どもたちが毎日安心して登校し、楽しく、そして意欲を持って学べる学校づくりに励んでまいります。

南郷小学校

「いつも笑顔で元気です」

校長 永野 恵理香

◆はじめに

全校児童57名、教職員14名で教育活動にあたっています。新1年生11名を迎え賑やかに元気いっぱい活動しています。

さて、本校の研究主題「子どもの『したい』を引き出す授業」とも学びの時間を重点に「では学力向上に向けて、本校では学習指導要領をふまえ、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をめざしています。学年部会やメンター会を中心に、各教科の授業スタイル「南郷小授業10の型」をそろえることで授業形態の確立を図りながら、今年度は「読むこと」に焦点を当てて、学び合う授業を重視した授業展開をめざして取り組んでいるところです。

同時にユニバーサルデザインに基づいた授業づくりを大切にし、どの子も「わかる・できる」授業を前提に取り組んでいます。

◆南郷小学校の教育実践

▼子どもの「やってみたい」を育む学校づくり

本校が教育の柱として掲げているのは、「子どもの『したい』を引き出す授業」です。この「したい」という言葉には、単に知識を教わる受動的な姿勢ではなく、「もっと知りたい」「自分たちの手で解決してみたい」という、子どもたちの内側からのエネルギーが込められています。▼「自分の考えを持ち、根拠をもとに伝える力」の育成

多様化する時代を生きる子どもたちにとって、ただ正解を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」を自分で考えることが大切です。本校では、日々の授業の中に「自分の考えを持ち、相手に伝えるように根拠をもとに説明する活動」を意識的に各教科で取り入れています。友だちとの対話はもちろんのこと、教科書の文章や資料をじっくりと読み解き、「ここにこう書かれているから」といった確かな根拠を見つけ出す力を養うことをめざしています。多様な考え方に触れながら、自分の言葉に責任と自信を

持つて表現できる子どもたちを育てています。▼学習内容に応じた、ICTの効果的な活用



ひとり1台のタブレット端末のICT機器は、現代の学びにおいて欠かせないツールです。本校では、単に端末を使うこと自体を目的とするのではなく、「自分の考えを支え、高めるために効果的な場面で活用すること」を重視しています。自分の考えの根拠を明確にするために、表へ打ち込みをしたり、考えを整理した文章にまとめたりする活動を、高学年を中心に行っています。1年生はまずは書くこ

とを中心に据えながら、タブレットでの打ち込みも取り入れ学びの幅を広げながら学習しています。

◆めざす児童像「徳」

「5つの『あ』+1」で育む本校では、「徳」の具現化に向け、「思いやりがあり、他者や環境に貢献できる子ども」の育成に取り組んでいます。その日常の具体的な実践指針として、「5つの『あ』」を大切にしています。

● あいさつ 気持ちの良い挨拶ができる子ども

● あんぜん 学校・社会のルールやマナーを守る子ども

● あとかたづけ 後片付け、後始末ができる子ども

● あつまり 時間を守り、授業・集会などに遅れない子ども

● ありがとう 感謝の気持ちを持つ子ども

さらに今年度は、これら5つの基盤の上に、相手の立場に立って考える実践力として「+1(プラスワン)」の目標を掲げています。

● 【+1】あいてをおもう 相手を思いやり、自分に使っていいなことは言わない・しない子ども

日々の学校生活の中で、この「5つの『あ』+1」を教職員が一体となつて価値付け、子どもたち一人ひとりの豊かな心と社会性を育んでまいります。



◆終わりに

次期学習指導要領の改訂を見据え、これからの時代を生きる子どもたちに必要なる力を育むため、教職員一同が同じ方向を向き、一人ひとりの学びを大切にしながら、よりよい学校づくりに取り組んでまいります。